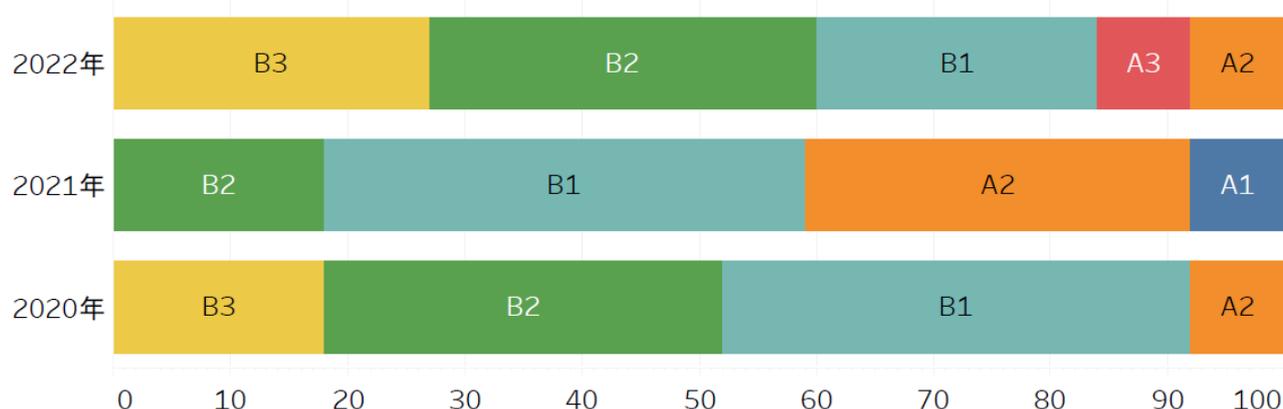


2022年 雙葉 算数

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題を中心として、知識・技術の再現力が求められる思考コード A の問題が出題されます。2021年と比べると B3、B2 の出題が大きく増え、難度が高くなっています。昨年と同等の難度を想定していた受験生にとっては厳しい問題構成でした。



大問 1 は、例年通り計算、一行題です。テキストなどでもよく見かける典型問題です。どれも確実に得点しておきたい問題です。大問 2 は、時計計算と思いきや、点の移動を追っていく規則に関する問題です。条件から規則を読み取って、点の動きを描いていきます。時計の中心から徐々に 12 へ向かって移動し、その後、時計の中心へ向かって戻っていきます。解答に自信が持ちづらく、ドキドキしながら取り組んだ受験生が多かったと思います。大問 3 は、典型的な規則性の問題です。2 行目、4 行目、6 行目、…と「偶数番目の行」、1 列目、3 列目、5 列目、…と「奇数番目の列」に注目します。すると、表に入るのは「偶数×偶数」番目の奇数、「奇数×奇数」番目の奇数になっていることがわかります。ていねいに計算して調べることで、解答にたどり着くことができます。大問 4、大問 5 の難度を考えると、(1)、(2)は得点しておきたい問題です。

大問 4 から、手が止まった受験生が多かったと思います。ここから難度が一気に上がります。大問 4(1)は、少し調べれば答えがわかります。確実に得点しておきたい問題です。(2)は、最初の 30 分後、10 と 7 の最小公倍数 70 分ごとに大型バス、中型バスが一致することに注目して調べます。かなり手間がかかる差がついた問題です。大問 5 の歩幅・歩数の問題もかなり厳しく、見送った受験生も多かったと思います。「兄は 1680 歩進んだところで弟とすれ違い、そこから 1260 歩進んで 1 周し終わりました」を言い換えると、兄と弟の進んだ道のりの比は $1680 : 1260 = 4 : 3$ となります。つまり、兄と弟の速さの比は 4 : 3 とわかります。

雙葉でよく見る平面図形、規則性や速さの問題構成でしたが、後半の難度が高く、前半の失点は大きな痛手となります。大問 1、大問 3 は得点しておきたい問題でした。大問 2、大問 4、大問 5 でどれだけ得点できたかで差がついたと思います。あくまでも予想ですが、大問 3(3)、大問 4(2)、大問 5 が取れなかったとしても、およそ 6 割 5 分には達することができると思えます。